



2016
5.28

2016
6.5

オランダ・ドイツに学ぶ新たな成長戦略 ～北海道における「産業用」大麻の利活用をめざして～

超党派の産業用大麻推進研究会の一員として、道議会から公式派遣をいただきました。
戦後、日本では、大麻草が、麻薬として、厳しく制限されています。一方、ヨーロッパでは、20年ほど前から、醗酵成分が基準値以下の種子が40種類ほど認可され、産業用としての利活用が進んでいます。
ベントンの高級車の内装材や、住宅の断熱材に使用される合成樹脂に代替する素材として注目されています。合成樹脂は、化石燃料を使用し、かつ、燃やしても燃え残るため、「栽培」可能、リサイクル可能であり、かつ、食糧と競合しない自然素材が求められています。

調査のためお会いした方は、限られた数ではありませんでしたが、オランダ・ドイツともに企業家には明確な意志がありました。その事が、産業大麻の推進が進まない日本との差異であると痛感しました。企業のミッションとして「地球環境への貢献(とくに気候変動対策)」「地域循環するものづくり(リサイクルを含めて)」などを掲げていました。

日本ではともすれば低価格勝負、新興国と競争するためのコスト削減が強調されがちですが、目先の単純な「安さ」ではなく、高い生産性・創造性のもとに、「地球」と「人の健康」に優しいものづくりをする事が、本当の未来の「安さ」になるというお話に感銘・共感しました。

産業用大麻推進の国際会議にもドイツで参加させて頂きました。科学的な検証・研究の怠りなく、一律に大麻草そのものを取締りの対象としている日本は、先進国の中では20年遅れの恥すべき状況でした。北海道においては20年遅れの恥すべき状況でした。

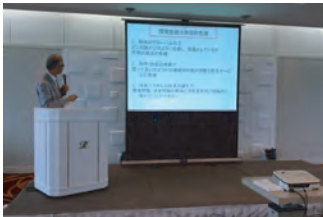
北海道における産業用大麻推進という一つのチャレンジを通して、政府・行政、政党、企業などあらゆる組織が地域環境の未来への責任や危機意識と、自らができる事を新しい発想で実現していく事を信じる力を、北海道の自立につなげていくことが、私の大きな「志事」であり、公費で派遣して頂いた私の任務であると認識しています。

産業用大麻に限らず、地球の未来と北海道の自立のために必要な1つ1つの小さな実践を全道各地で積み重ねていきたいと思います。皆さまのご支援、ご協力も心から願っています。



2016
6.20

「何のために経済があり、科学があり、 企業経営があるのか」



エシカル札幌朝大学第1回目の講座にお招きいただきました。エシカルとは、直訳すると「倫理的」「道徳的」という意味ですが、東大名誉教授山本良一さんは、国連など国際政治が、気候変動の根本原因や、貧困・格差に、機能できない状況の中で、「倫理的」消費活動のムーブメントを提唱しています。脱アベノミクスが必要です。

2016
6.23

安売り競争のための規制緩和から シェア(分かち合う)ビジネスへ



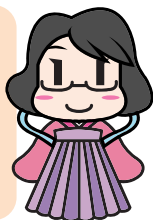
社会起業家でもあり、真正正銘のイクメンでもある南邦彦さん、石黒一茂さんをお招きして、ネット上でゲスト(旅人)とホスト(一般家庭)をつなぐ「ママの札幌・北海道の現状など」について情報交流しました。
有人、代行の場合など、区別が必要ですが、従来の規制緩和に賛成か反対かという硬直化した議論を超えて、北海道の新たな価値を発信するしくみとして注目です。

◎ひろまる通信ご希望の方は

FAX番号またはご住所をお知らせ下さい。

TEL:011-860-8666

FAX:011-860-8667



フェイスブックページも更新中です!

▼広田まゆみ

<https://www.facebook.com/mayumi.hirota.94>

▼北海道議会議員 広田まゆみ政務事務所

<https://www.facebook.com/hiromarujimusyo>

LINE@はじめました!

ID検索で @krs3857u 友だち追加をお願いします